

カリフッドが岩内工場改修 米向けサケ・マス製品強化へ



井出敬也社長

【北海道】カズノコ・ニシン、サケ・マス加工のカリフッド（本社・東京都、井出敬也社長）はこのほど北海道・岩内工場を改修した。対米HACCP取得を視野に入れ

対米HACCP取得を見据えて改修した（カリフッド岩内工場内部）



たりリニューアルで、輸入や道産サケ・マスなどの米国向け製品加工などに着手したい考えた。

岩内工場は廃業した水産加工会社施設を2012年に取得。事務所、冷蔵倉庫、加工場がある。現在、ロシアや道産などの抱卵ニシンの1次処理、カズノコやニシン製品加工、パッキングなどで通年操業する。1、2階合わせて床面積750

平方メートルの加工場内部の改修工事に1月着手し、このほど完了した。

1次処理などを行う1階は、床を塩分や清掃時の薬品でも劣化しづらい特殊コーティングを施し、壁全体を衛生的なパネルで覆った。飛散防止対策が採られた照明器具、通年で18度以下の室温を保つように空調設備を整え、除湿機も導入。搬出入口を外気や虫など

岩内工場外観



の侵入を遮断する二重シャッターにした。今後、来年の対米HACCP認定取得に向けて準備を進めていく。

井出社長は工場改修の狙いについて、「新型コロナの影響で海外のサプライチェーンが機能しなくなっている。円安環境下での国内加工は既に海外と競争できるレベルで改修はその第1段階。国内外で水産加工品の需要が旺盛でも、生産側が対応できていない。今後、国内外のパートナーとどのような製造拠点整備を

していくか協議していきたい」と先を見据えている。同社はロシア産サケ・マスの冷凍ドレッシングを輸入。昨年はマスを主体にシロサケ（秋サケ）を含め2000トを取り扱い、一部を中国やベトナムの提携工場でのフィッシュ加工後、ピンボーン処理したボーション製品を米国内向けに販売する。「サーモンスキーなどとして

目下、ウクライナ侵攻に対するロシアへの制裁措置で、米国がロシア産水産物の輸入禁止や米国内の外食・量販店などの販売中止で「事実上、取引は止まっている（同）。しかし世界的な加工場不足に加え、天然サケ・マスの供給難が続いていることから、輸入原料を軸に道産の調達も視野入れながら、岩内工場での国内自社製造を強化していくと考えた。